



「関」を超えよ！！

人間でも企業でもそうであるが、「関」を超えられない場合が多く見られる。途中で挫折してしまうのである。

それは一体、何故であろうか？

No. 46でThreshold(スレッシュホールド)について触れた。日本語では、「閾値(いき値)」あるいは「しきい値」と言われている言葉であるが、「関」の意味も同じである。

この「関」をなかなか超えられないのである。

人間はどうしても生きていく上での「楽観」を持っている。

自分に対する「甘さ」もある。

辛いこと、苦しいこと、あるいは大きな困難にぶち当たった時、楽な方に逃げてしまうのである。

場合によっては途中で投げ出してしまう。

また今度にすればいい。また明日やろう。また・・・また・・・また。

よく頑張ったし、ここまでやったのだからもう良いだろう・・・。

しかし、明日があるかどうかは「神のみぞ知る」ということである。

生きていく上での「楽観」や自分に対する「甘え」を克服していくためには、「一日一死」の想いが大切になってくる。

この一瞬しかない。今日のこの一日しかないという想いである。

今日一日で自分の寿命は尽きてしまうという覚悟で、すべての物事に当たっていくことが必要になってくる。

もうひとつの原因は、途中で辞めてしまうことにある。

「関」を超えられない失敗のほとんどは途中で辞めたからである。

物事がうまくいかない原因の多くは、持続性の欠如によるところが大きいと言われている。どんなりっぱな企画や考えや取り組みでも、途中で辞めてしまったのでは絶対に「関」を超えることは出来ない。

では、なぜ途中で辞めてしまうのか？

それは無意識の内にも「試練」を避けようとするからである。無意識の否定、これこそが継続を中断させる最大の敵である。

能力もあり、願望もあり、実行する気持ちもある。だがしかし、行く手に立ちふさがる試練のつらさに耐えられない。多くの人は無意識にこの試練に恐怖してしまっているのである。

